



エコー下穿刺をご存じですか？

エコー下穿刺とは、エコー(超音波診断装置)を用いて血管の状態を確認しながら穿刺を行う方法です。

普通の穿刺とエコー下穿刺の違い

一般的な穿刺では視て、触って、聴診器で音を聞いて針を刺します。エコー下穿刺では上記に加え、血管の太さ、深さ、進行方向などをその場(エコー)で確認しながら穿刺を行うことができます。

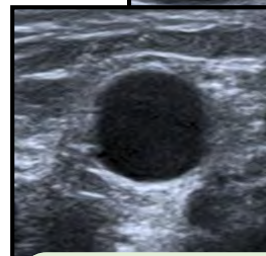
【メリット】

- ・ 穿刺の成功率が上がる。
- ・ 針を刺す前にシャントの問題を発見できる。

【デメリット】

- ・ 準備に時間がかかる。
- ・ 通常時より穿刺の痛みが強くなる可能性がある。

(例)



血管の中が見える！



らくの助

洛和会ヘルスケアシステム
公式キャラクター

こんな時にエコー下穿刺を行います

- ・ 触っただけでは血管がどこにあるのかわかりづらい。
(血管が深い、細い、蛇行しているなど)
- ・ 穿刺を失敗してしまった後で血管がわかりづらい。
- ・ よく穿刺が難しいと(スタッフに)言われる。

エコーを用いることで穿刺に時間がかかったりすると不安に感じるかもしれませんが、安全に透析を行うため、ご理解のほどよろしくお願いいたします。